

# 島根県における主要水産資源に関する資源管理調査（H23、H24）

（資源管理調査業務委託事業）

沖野 晃・安木 茂

## 1. 研究目的

島根県における主要水産資源の合理的・持続的利用を図るため、県内における漁業種類別・魚種別の漁獲動向を把握する。また、小型底びき網漁業（手繰第一種漁業）において、選択漁具の使用によるズワイガニ小型個体の混獲軽減の検証を行う。さらに島根県沖合海域における底魚・浮魚資源の分布状況を把握し、資源管理手法開発の基礎資料とする。

## 2. 研究方法

### (1) 漁獲動向の把握

平成23年度に、漁獲管理情報処理システムの変更及び最新のOS、ソフトへ対応するためのシステム改造を実施すると共に、漁業協同組合JFしまねと海士町漁業協同組合に水揚げされる漁獲データを本システムにより収集・集計した。

### (2) 選択漁具開発・普及のための調査

小型底びき網漁業（手繰第一種漁業）において、選択漁具の使用により小型魚やズワイガニ小型個体の混獲を減少させることで資源の効率的な利用を図るため、大田地区において、平成23年11月～平成24年3月、平成24年11月～平成25年3月に、小型底びき網漁船3隻を標本船とし、島根県水産技術センターが開発した選択漁具を用いた試験操業を行い、選択漁具の使用状況調査を行った。

### (3) 資源状況調査

島根県沖合海域における底魚類及び浮魚稚仔資源の資源管理手法開発の基礎資料とするため、試験船島根丸を用いて、平成23年度は底魚を対象として計6航海、平成24年度は底魚及び浮魚稚仔を対象として計6航海のトロール試験操業と3航海のニューストンネット試験操

業を実施し、主要底魚類及び浮魚稚仔の分布や体長組成等の資源状況を把握した。

## 3. 研究結果

### (1) 漁獲動向の把握

平成23年度に、漁獲管理情報システムの変更等改造を実施するとともに、平成23年度、24年度の島根県における主要漁業の毎月の漁獲状況について集計し、島根県資源管理協議会へ報告した。

### (2) 選択漁具開発・普及のための調査

選択漁具を使用した場合、各船の平均選別時間は平成23年度には4～8分、平成24年度には1～6分短縮された。

### (3) 資源状況調査

島根丸による主要底魚類のトロール調査では、平成23年度はニギス、アカムツ、ケンサキイカが、平成24年度はキダイ、ケンサキイカ、ニギスが多く漁獲された。

浮魚稚仔については平成24年度に調査を実施し、魚類、甲殻類など数種類が採捕され、魚類ではアイナメ科の稚魚が最も多く、調査点当たり13尾、その他の魚種は種の特定期間には至らなかったが、アジ科の稚魚、カタクチイワシのシラス、ウミヘビ科の稚魚などが漁獲され、いずれも全地点での合計が1～2個体程度であった。その他、オキアミなど甲殻類が多く採捕され、調査点当たりの採捕数は97個体であった。

## 4. 研究成果

●調査で得られた結果は、島根県資源管理協議会へ報告され、漁業者が実施する資源管理の取り組みに利用されている。